

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 10 月 12 日 (2006.10.12)

【公開番号】特開 2004-110019 (P2004-110019A)

【公開日】平成 16 年 4 月 8 日 (2004.4.8)

【年通号数】公開・登録公報 2004-014

【出願番号】特願 2003-306469 (P2003-306469)

【国際特許分類】

G 0 3 F 7/004 (2006.01)

G 0 3 F 7/022 (2006.01)

G 0 3 F 7/039 (2006.01)

H 0 1 J 9/02 (2006.01)

H 0 1 J 11/02 (2006.01)

【F I】

G 0 3 F 7/004 5 0 1

G 0 3 F 7/004 5 0 3 B

G 0 3 F 7/022 6 0 1

G 0 3 F 7/039 6 0 1

H 0 1 J 9/02 F

H 0 1 J 11/02 B

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 8 月 29 日 (2006.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

有機成分と無機微粒子を含むポジ型感光性ペーストであって、有機成分として少なくともアルカリ可溶性樹脂、光酸発生剤を含有し、無機微粒子として少なくともガラス転移点が 400 ～ 600 の範囲であるガラス粉末を含有することを特徴とするポジ型感光性ペースト。

【請求項 2】

有機成分と無機微粒子を含むポジ型感光性ペーストであって、有機成分として少なくともアルカリ可溶基が酸またはアルカリで脱離する基で保護されているアルカリ可溶性樹脂を含み、かつ光酸発生剤または光塩基発生剤のいずれかを含有し、無機微粒子として少なくともガラス転移点が 400 ～ 600 の範囲であるガラス粉末を含有することを特徴とするポジ型感光性ペースト。

【請求項 3】

前記光酸発生剤として、ジアゾナフトキノ化合物を含む請求項 1 または 2 に記載のポジ型感光性ペースト。

【請求項 4】

さらに紫外線吸収剤を含有する請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載のポジ型感光性ペースト。

【請求項 5】

溶媒を除いた有機成分の平均屈折率と無機微粒子の平均屈折率の差が 0.2 以下である請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載のポジ型感光性ペースト。

【請求項 6】

無機微粒子として、Au、Ag、Pd、Ptの中から選ばれる導電性粉末のうち少なくとも1種を含む請求項1～5のいずれかに記載のポジ型感光性ペースト。

【請求項7】

請求項1～6のいずれかに記載のポジ型感光性ペーストを用いるパターン形成方法。

【請求項8】

ペースト塗布膜に露光光を照射し、露光マスクをペースト塗布膜に対して相対的に移動させた後、再度露光光を照射することを特徴とする請求項7に記載のパターン形成方法。

【請求項9】

ペースト塗布膜に露光光を照射しながら、露光マスクをペースト塗布膜に対して相対的に移動することを特徴とする請求項7に記載のパターン形成方法。

【請求項10】

露光マスク開口部の露光光透過率が部分的に異なる露光マスクを介して露光を行い、部分的に高さの異なるパターンを形成する請求項7に記載のパターンの形成方法。

【請求項11】

請求項7～10のいずれかに記載のパターンの形成方法を用いるプラズマディスプレイの製造方法。